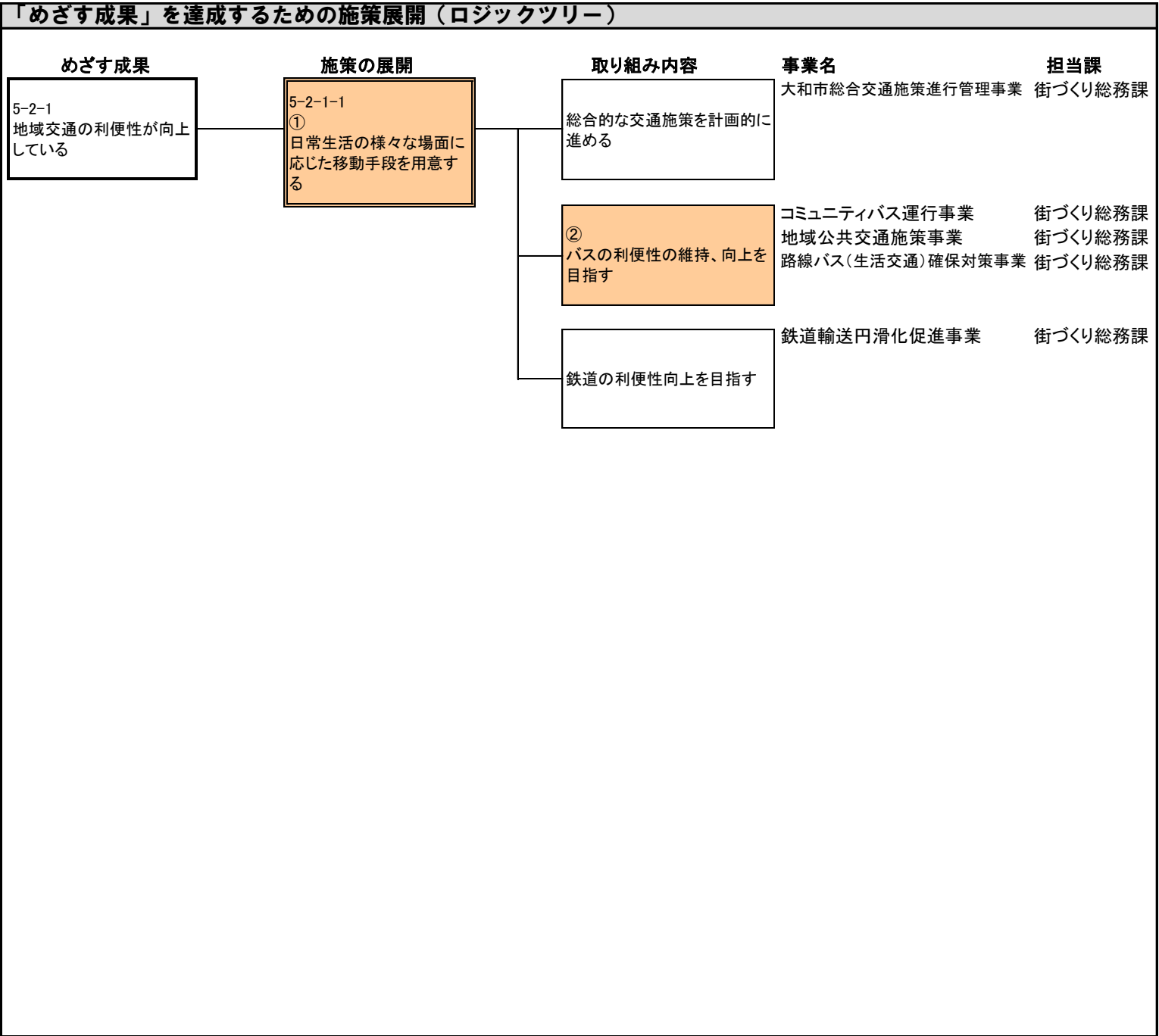


平成27年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
5－2－1 地域交通の利便性が向上している		
総合計画体系	健康領域・基本目標	まちの健康・快適な都市空間が整うまち
	個別目標	移動しやすい都市をつくる
	めざす成果	地域交通の利便性が向上している
		地域交通の充実により、まちの中を気軽に移動できています。



成果を計る 主な指標	指標の名称	前期基本計画			後期基本計画		
		計画策定時 (H20)	最終目標値 (H25)	実績値 (H25)	実績値 (H26)	中間目標値 (H28)	最終目標値 (H30)
	① 大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う市民の割合	74.2%	82.0%	75.7%		80.0%	82.0%
	② コミュニティバスの利用者数			375,072人	421,183人	638,100人	721,500人

所 管 部		街づくり計画部	
平成26年度の取り組み内容		【日常生活の様々な場面に応じた移動手段を用意する】 ・市南北地域を運行するコミュニティバス「のろっと」の平成26年度利用者は、333,643人となり、昨年比で約3,500人の増加となりました。 ・平成26年10月及び平成27年1月から、市内4地域で本格運行を開始したコミュニティバス「やまとんGO」の利用者は、平成25年度に実施した実験運行時と比べて約1.5倍の利用者数となっています。 ・これらの取り組みの結果、コミュニティバスの年間利用者は、約40万人となりました。 ・西鶴間・上草柳地区における地域と市の協働事業として実施している「のりあい」については、約17,000人の方が外出時の移動手段として利用しています。	
構成事業に対する考え方 (事業の量及び実施手法)		・コミュニティバスの運行により、鉄道や路線バスなどの公共交通機関と合わせると、市民の80%以上の方が、様々な移動手段を選択しながら、日常生活において、気軽に外出できる環境が整いました。 ・今後は、より一層、市民の外出機会を増加させるため、福祉施策、健康施策など、様々な部署との連携を図りながら取り組みを進めていくことが必要となります。 ・「のりあい」については、協働事業として実施しながら、安定した取り組みとなるよう、地域の方々と検討を進めていきます。	
今後の展開方針		注) 例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。	
新規事業の立案		(該当する事務事業)	
既存事業の拡充		(該当する事務事業)	
事業の廃止・縮減		(該当する事務事業)	
事業の効率化		(該当する事務事業)	
その他見直し		(該当する事務事業)	